

2. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102801		
法人名	有限会社 さくらんぼ		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	長崎市女の都3丁目1番6号		
自己評価作成日	平成 22 年 9 月 21日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 11 月 9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217番地島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定員6名のホームです。平均年齢90歳、平均介護度3.7ですが、その人らしい生活が送れるよう、スタッフ全員で力をあわせ頑張っています。
毎月、手書きの『さくらんぼ便り』を発行し、ホーム前、協力医院、公民館に掲示したり、色々な所へ配布しており、今では楽しみに待って下さる人もおられます。
地域の方々にも理解していただき、色々な行事に参加させてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎市内の高台の住宅地の中に位置し、バス停が事業所前にあり、隣接して協力内科医院があることから、地域住民の周知にも繋がっている。管理者と職員は、親にしてあげられなかった事を恩返しをしたいとの思いを抱き、利用者がその人らしい快適な暮らしを送れる為の環境要因の一人であると考え、日々支援に取り組んでいる。事業所の名称になっている「さくらんぼ」のように、支援をする側と利用者がお互いを支え合い、寄り添い、一緒に生活している。利用者が職員のエプロンを喜んで結び直される場面からも、利用者が役割を担い生活の中で自信を持てることを大切にしており、職員は感謝の気持ちを利用者自然に伝えている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2. 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしく生活できる様な理念を作り、その理念を具体的に実践するために3ヶ月毎に、全員で努力目標を定め、出来たか出来なかったかの評価も全員で行っている。	理念に基づく目標を管理者と職員は定期的に話し合うことで、家庭的な雰囲気のなかで、健康で明るく自分らしい暮らしを送れるように、日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行き出会う方々に挨拶したり、声をかけて載っている。公民館祭り、地域の夏祭り、保育園の運動会、お遊戯会にも参加する。又交流の一環として、地域の方が行われるグラウンドゴルフを応援したり、公園に花を植えたりもしている。	管理者は地元で長く在住し、職員も地元在住者が数名いることから、地域の馴染みの存在である。近隣の方が気軽に立ち寄ったり、果物のお裾分けをする間柄であり、近くの保育園児が散歩の途中で握手をして挨拶をしてくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さくらんぼ便りをホーム玄関前掲示板や協力医院、公民館に掲示したり配布して、理解して載けるよう努力している。又地域の行事等に参加し理解と支援をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回長崎市、包括支援センター、地域の代表、入所者家族に参加して戴き、いろいろな意見を聞き、サービス向上に活かしている。ホームでの生活を見てもらう為ホームで行い、その後入所者と一緒に食事し気軽に話が出来るようにしている。	家族の方に多く参加して欲しいとの思いから、行事に合わせて日程の調整を工夫している。運営推進会議の中で、参加者に意見を伺い非常時の外履きスリッパを備える等、実施に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず市が包括支援センターに参加して戴き、ホームの生活を見てもらいながら相談している。又介護相談員にも来ていただいている。	積極的に市町村の担当者に相談を行い、利用者の問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。市町村主催の研修会にも参加して、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、スタッフ会議等でいつも話し合い、全員理解している。転倒の危険性が高い入所者の方に、御家族と協議し、市に確認を行い徘徊センサーを使用する等、状況に応じた取り組みを行っている。	外出傾向があらわれる利用者に対しては、職員が「花を見ましょうか」とやさしく語りかけ、一緒に同行する等、安全面に気を配り、その人らしい暮らしを支えるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	県身体拘束廃止推進員養成研修等を受けたり、全体会議やスタッフ会議等を通し話し合い、いろいろな虐待行為をしていないか話し合っている。又スタッフはストレスをためないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で勉強し、その研修資料をホーム内研修としてスタッフ全員に回覧し、捺印している。又現在、権利擁護を利用している入所者がおられ支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で、時間をかけよく説明し家族の話もよく聞いている。納得戴いて署名捺印後、契約書を渡している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に、意見や要望を話して戴くよう常に心がけ聞くようにしている。小さなことでも毎日の申し送りや、スタッフ会議で全員が共有し、サービスに反映させている。介護相談員も申し出があれば受けている。	些細な事でも話して頂ける環境作りを工夫している。職員、利用者、家族を交えて一緒にお茶を飲んだり、馴染みのおやつ作りをするなど和やかな雰囲気の中で相談や意見聴取ができる機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、夕の申し送りに参加して話しをよく聞いている。ホームの2階に住んでおり、常に連絡できるようにしている。全体会議を年2回開催し意見を聞いている。入所者の受け入れ時には入所検討会議を行っている。	管理者は節度ある関係を保ちながらも、職員から家族の一員として助けられている、と感謝の気持ちを表して接している。サービス向上の為に職員の自発的取り組みを、管理者は奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の申し送り等に参加し、又個別に話しを聞く等して、状況をよく把握している。その人にあった勤務体制を組み、働きやすいようにしている。又資格取得の声かけや支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等に参加出来るようにしている。研修資料や県・市からの通知・通達はホーム内研修として、全職員で閲覧・捺印し、勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム協議会の会員として、会議や研修会に参加し、研修会資料は全職員で閲覧したり会議等で話し合い参考にしている。他のグループホームを見学したり、行事に参加させていただいた。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接面会し、よく話を聞いている。状況によっては、体験入所して戴き、安心して生活して戴けるかどうかを確認している。又職員は、いい関係が作れるよう努力する。さらに家族や関係者からも話をよく聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯をよく聞いて、どのように対応したら本人も家族も、安心して落ちついて暮らせるか話し合いをしている。又思いを気軽に話して戴ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話をよく聞き、理解するようにしている。必要ならば他のサービスや、他の施設の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員としていろいろ教えてもらったり、手伝って戴き、その都度感謝の言葉かけをし、少しでも出来る事をみつけて行って戴く事で、やる気を引き出したり喜んで戴いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もよく来訪してくださるので、その都度近況報告や相談をし、家族と同じ思いで支援できるよう協力しながら、その人らしく生活出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や友人、知人が来訪され、ゆっくりお茶を飲みながら、またはおやつと一緒に食べながら話されることがある。又お寺や教会等、馴染みの場所にお連れするといった支援も行った。	これまで利用者が馴染みのある大切にされてきた料理の支援を買い物の同行を行い支援している。家族の協力も頂きながら、一人ひとりの生活習慣を尊重し、馴染みを探すことも検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士が支えあいながら楽しく生活出来る様、日々注意深く見守り、全スタッフで情報を共有し、支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活環境、支援の内容、注意点について情報提供し、馴染みのスタッフが訪問したりして相談や支援をしている。又亡くなられた方には葬儀に出席したり、仏様参りを行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の思いを把握し、スタッフ間での連絡も行っている。又個別に聞き、家族や関係者からもよく聞いて、その人らしく生活できるように努めている。	日々の生活の中でやさしく声を掛け、利用者の意向や思いの把握、好きな事を見つけ出すように努めている。意思疎通が困難な方には、表情から汲み取ったり、家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーや言葉に配慮しながら、本人、御家族等からよく話を聞き、全体像の把握に努めている。また、趣味や職歴等にも目をむけ、日々のコミュニケーション等に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムや行動をよく理解し、声かけ見守りで、出来ることを無理のない範囲や程度で行って戴く。日々の記録にも記述したり、申し送りや伝達する等、現状の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃から話をするように心がけている。又スタッフ全員で書面にて事前に意見を徴収し、カンファレンスを実施している。御家族には、介護計画を説明し、同意の署名、捺印を戴き、控えを渡している。	利用者の一人ひとりが自分らしい生活が送れるように、家族の意向も踏まえ、時には主治医の意見を頂き、複数の目線でカンファレンスを行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、生活の様子や言葉を記録している。週間のバイタルチェック表で体温・血圧・食事量・排泄・入浴・リネン・来訪者・薬・特記事項を記録し、全職員で情報共有し介護計画の見直し評価に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買物、病院受診等支援している。援助者がいない家族から頻繁にかかる電話に対応したり、希望される時は買い物をして送ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域包括支援センター・町内会・民生委員の方に参加して戴き、協力してもらっている。町内の行事・保育園の行事・他のグループホームの行事に参加させて戴いて喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望される医療機関を受診している。家族同行の受診には、バイタル等を報告し受診後の結果を報告してもらって記録している。隣が協力医療機関なので、いつでも相談が出来、往診して戴いている。	隣接の協力医院を家族の希望もあり、主治医とされている利用者が多い。一日に2回バイタルチェックを行い、必要があれば直ぐに往診して頂ける関係を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないので、一日に2回(朝、夕)、バイタルチェックを行い観察し、小さい変化も見逃さないようにしている。隣に協力医療機関があり、いつでも相談に協力して戴ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療ができるように、週間バイタル表やお薬情報を提供し、普段の生活状況や特徴等を伝えている。又お見舞いに行ったり医療機関や家族とも回復状況等情報交換しながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所が対応しうるケアについて説明し、家族の意向も聞いている。家族・医師・スタッフが連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでおり、状態変化がある際は、速やかに話し合いを行っている。	入居の際に事業所が対応可能な最大のケアについての説明をしている。状態の変化があった場合は、その都度利用者、家族、医師も含め一緒に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より来所してもらったり、外部研修に参加している。又内部研修も行い全職員が対応出来るようにしている。夜勤時の緊急時対応について、周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で、市・地域住民の方々と話し合った。また、消防署より消防に通報する前に、サイレン付拡声器で近所に助けを求めるように指導された。近隣11件にホームの避難図を配布し、協力して戴けるようにしている。年2回消防訓練をしている。飲料水等の備蓄や非常持ち出し品リストも作っている。	職員が一人でも備品を持ち出せるような工夫を行い、訓練を数日に渡り実践的に行っている。事業所前のバス停の掲示板に事業所の見取り図を掲載している。	これまでの年に2回の訓練に加え、事業所独自の方法で、夜間想定のカンパニオンを行う等、反復して訓練を行うことで、職員の自信に繋げたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が自分に対する自己評価を年2回している。毎日の申し送り、スタッフ会議、全体会議で常に話し合い、日常的に確認し改善に向け、事業所全体で取り組んでいる。	利用者の人格を尊重する言葉を選び、話題にも配慮を行っている。職員会議の際には、個人名を出さない工夫を行い、記録類の管理にも気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のケアを通して、入所者の希望・関心・嗜好を全職員で共有しているが、その都度尋ねている。意思表示がうまく出来ない場合でも表情等を読み取り自己決定出来るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事等一人ひとりの体調に配慮し、気持ちを尊重して、個別性のある支援を行っている。買物や散歩等もその人に合わせ支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向で決めて戴き、見守りや支援をしている。自己決定が出来ない入所者には、声かけしながら気持ちにそった支援をしている。行事や外出の時は、おしゃれをして戴く。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや嫌いなものを全職員が理解しており、メニューを工夫し旬の食材や新鮮な材料を用意し、季節を感じて戴くようにしている。同じフロアで調理しているので味見をしたり、まだかまだかと待たれる人も多い。スタッフも一緒に同じ内容の食事を食べている。	彩りを考え、美味しい物を楽しく食べて頂く事を大切にしており、利用者と職員が同じ食卓で、一緒に同じものを食べている。台所から調理の姿も見え、五感を働かせる事ができる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食物や飲み物の好みを理解し、体調等に合わせ一日の栄養や飲水量がどの程度取れているか、全職員が常に意識しながら食欲を促し、食が進むよう工夫し見守りや介助をしている。栄養のバランスを考えて献立している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけをしたり援助をしている。嚥下体操をして戴き、おいしく食事が出来るように、また誤嚥性肺炎を予防するように支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握しており、失敗が少なくトイレで排泄できるように支援している。失敗しても、手早く周囲に気づかれないように配慮しながら支援している。	トイレでの排泄を大切に考え、一人ひとりの排泄のパターンを掴み、困難な部分を考慮し、身体機能に応じて、さりげなく支援を行うように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、食材や水分補給して戴くようにして、自然排便を促すようにしている。散歩やマッサージで腸の動きをよくするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回と曜日や時間帯はだいたい決めているが、外出等で遅くなる時は、待ったり早くしたりしている。希望があれば曜日に関係なくシャワー浴が出来る。失禁等では随時シャワーで対応している。又出来るだけ浴槽に入っているように支援している。	一人ひとりのその日の気持ちや習慣に合わせ、無理強いをせず、週に3回の入浴支援を行っている。入浴は、利用者とゆったり会話できる機会と捉え、寛いだ雰囲気作りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。体調や表情・希望等を考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援している。全員、良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能・副作用の説明を一覧表にして、全職員がわかるようにしている。変更がある時もすぐに申し送りノートや伝言でわかるようにしている。服薬時は本人に手渡ししたり、介助して服用できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干す前のしわ伸ばし、たたみを喜んでして下さる。豆の皮むき、つわ・ふき・芋つるの皮むき等も一緒に行い、茶碗ふきやテーブル拭きもして戴く。地域の行事に参加して楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物、ドライブ、食事等に出かけている。地域の夏祭り、保育園の運動会、花見、帆船祭り、ジャンボタクシーでのおくんち見物等にも参加している。	利用者の状態や希望に合わせ、季節や行事に応じて、戸外に出かけられるように支援している。ご家族からの要望があれば、車椅子と車椅子対応車両をお貸しすることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は御家族と相談して、小額所持しておられた方もいたが、現在は所持している入所者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に電話をかけたり、かかった時に應對して載っている。贈物を戴いた時など、遠方でも本人にお礼の電話をかけて戴く。ハガキや手紙はよく戴くが、支援しても本人が書く意欲がない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の室温は入所者の体調や様子をみて設定し、カーテンの開閉も入所者がされるのを支援している。ゆず湯や菖蒲湯にして季節感を取り入れている。トイレも自立できるように手摺りを取付け、ロールカーテン等でプライバシーにも気をつけている。	台所、食堂、居間が同じフロアにあるお陰で、利用者はこれまで生活されてきた家庭的な雰囲気と変わらない中で、思い思いに過ごされている。職員の見守りが常にあり、会話も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や前庭、裏の駐車場に花や野菜を植え、ベンチを用意している。玄関に用意している椅子で花や外を眺めたり、車椅子でも眺めたりされる。居間から花壇や外も眺められる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・布団・枕・湯呑み・茶碗・箸。時計・写真等を持ってきておられる。ホームよりアルバムを用意しており、家族や友人の来訪時に一緒に見られている。	利用者がこれまで大切にされてきた思い出の品々が持ち込まれ、居心地良く過ごして頂ける様に配慮している。その人らしさが伝わってくる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせ、手摺りをつけたりしている。必要な目印を付けたり、物の配置にも考慮している。混乱や失敗が生じた時は、その都度職員で話し合い、不安や混乱がないよう、自立を支援している。		